

章節項款	危機、生態系	指標No.	指標名	データ例No.	データ名
Ⅱ.2.3.(1)	第1の危機	指標1	生態系規模の変化	BOX-①	ロードキルの事例 イリオモテヤマネコ、ヤンバルクイナ、ツシマヤマネコ
Ⅱ.2.3.(3)、Ⅱ.3.3.(3)	第1・2の危機	指標1	生態系規模の変化	1-①	土地利用の推移
Ⅱ.2.3.(3)、Ⅱ.3.3.(3)	第1・2の危機	指標1	生態系規模の変化	1-②	一部の生態系規模の縮小
Ⅱ.2.3.(3)	第1・2の危機	指標1	生態系規模の変化	1-③	改変の少ない植生の分布
Ⅱ.2.3.(3)	第1・2の危機	指標1	生態系規模の変化	1-④'	荒地の面積の推移
Ⅱ.2.3.(3)	第1・2の危機	指標1	生態系規模の変化	1-④	20世紀初頭から1980年代までの土地利用の変化
Ⅱ.2.3.(3)	第1・2の危機	指標1	生態系規模の変化	1-⑤	20世紀初頭から1980年代までの土地利用の変化
Ⅱ.2.3.(3)、Ⅱ.3.3.(3)	第1・2の危機	指標1	生態系規模の変化	1-⑥	1980年代から1990年代までの土地利用の変化
Ⅱ.2.3.(3)	第1の危機	指標3	水域の富栄養化	3-①	湖沼・海域における全窒素濃度および全リン濃度の推移
Ⅱ.2.3.(3)、Ⅱ.4.3.(3)	第1・2・3の危機	指標4	種の絶滅	4-①	分類群ごとの絶滅危惧種の割合
Ⅱ.2.3.(3)、Ⅱ.4.3.(3)	第1・2・3の危機	指標4	種の絶滅	4-②	生物分類群ごとの減少要因
Ⅱ.2.3.(3)	第1・2・3の危機	指標4	種の絶滅	4-③	絶滅種、野生絶滅種の年代と種名
Ⅱ.2.3.(3)	第1・2・3の危機	指標4	種の絶滅	4-④	絶滅種、野生絶滅種の絶滅要因
Ⅱ.2.3.(3)	第1・2・3の危機	指標4	種の絶滅	4-⑤	RDB掲載種(維管束植物)の都道府県別種数
Ⅱ.2.3.(3)	第1・2・3の危機	指標4	種の絶滅	BOX-②	RDB掲載種(維管束植物)による絶滅確率集中地域
Ⅱ.2.4.(1)、Ⅱ.2.4.(2)	第2の危機	指標5	保護地域	5-①	主な保護地域の面積の推移
Ⅱ.2.4.(1)、Ⅱ.2.4.(2)	第2の危機	指標5	保護地域	5-②	各生態系の保護地域カバー率
Ⅱ.2.4.(2)	第2の危機	指標5	保護地域	5-③	各生態系の保護地域カバー率
Ⅱ.2.4.(1)、Ⅱ.2.4.(2)	第2の危機	指標6	捕獲・採取規制、保護増殖事業	6-①	「種指定天然記念物」と「国内希少野生動植物種」の指定数の推移
Ⅱ.2.4.(1)、Ⅱ.2.4.(2)	第2の危機	指標6	捕獲・採取規制、保護増殖事業	6-②	都道府県版RL、RDBと希少種条例を作成・制定した都道府県数
Ⅱ.3.4.(2)	第2の危機	指標7	野生鳥獣の科学的な保護管理	7-①	特定鳥獣保護管理計画の策定数
Ⅱ.4.3.(3)	第3の危機	指標8	外来種の種数と分布	8-①	外来昆虫・外来種子植物の種数
Ⅱ.4.3.(3)	第3の危機	指標8	外来種の種数と分布	8-②	海外から輸入される生きた動物
Ⅱ.4.3.(3)	第3の危機	指標8	外来種の種数と分布	8-③	侵略的な外来生物(アライグマ)の分布・捕獲数
Ⅱ.4.3.(3)	第3の危機	指標10	化学物質による生物への影響	10-①	主要汚染物質の検出割合経年推移(魚類)
Ⅱ.4.4.(2)	第3の危機	指標9	外来種の輸入規制、防除外来種の輸入規制、防除	9-①	特定外来生物に指定された種類数
Ⅱ.5.3.(2)	温暖化の危機	指標11	温暖化による生態系の変化	11-①	サンゴの白化の状況
Ⅱ.5.3.(2)	温暖化の危機	指標11	温暖化による生態系の変化	11-②	アボイ岳の高山植物の減少
Ⅱ.5.3.(2)	温暖化の危機	指標11	温暖化による生態系の変化	11-③	オホーツク海の海水の減少及び、海洋生態系への影響
Ⅱ.5.3.(2)	温暖化の危機	指標11	温暖化による生態系の変化	11-④	ブナ林の分布域の縮小
Ⅱ.5.3.(2)	温暖化の危機	指標12	温暖化による種の分布域の変化、フェノロジーの変化	12-①	ナガサキアゲハの分布北上
Ⅱ.5.3.(2)	温暖化の危機	指標12	温暖化による種の分布域の変化、フェノロジーの変化	12-②	サクラの開花時期の変化
Ⅱ.5.3.(2)	温暖化の危機	指標12	温暖化による種の分布域の変化、フェノロジーの変化	12-③	コムクドリの産卵時期の変化
Ⅱ.6	危機への対策の基盤	指標13	生物多様性の認知度	13-①	生物多様性の認知度
Ⅱ.6	危機への対策の基盤	指標14	日本の環境分野におけるODA金額とODA全体に占める割合(%)の推移	14-①	日本の環境分野におけるODA金額の推移と生物多様性関係の割合
Ⅱ.6	危機への対策の基盤	指標14	生物多様性の保全に関連する基金等への拠出額	14-②	生物多様性の保全に関連する基金等への拠出額
Ⅲ.2.2.(2)	森林生態系	指標15	森林生態系の規模・質の変化	15-①	森林面積(天然林・人工林)の推移
Ⅲ.2.2.(2)	森林生態系	指標15	森林生態系の規模・質の変化	15-②	森林蓄積量(天然林・人工林)の推移
Ⅲ.2.2.(2)	森林生態系	指標15	森林生態系の規模・質の変化	15-③	世界と日本の森林面積の変化
Ⅲ.2.2.(2)	森林生態系	指標15	森林生態系の規模・質の変化	15-④	人工造林面積の推移
Ⅲ.2.2.(2)	森林生態系	指標15	森林生態系の規模・質の変化	15-⑤	ニホンジカの分布
Ⅲ.2.2.(2)	森林生態系	指標15	森林生態系の規模・質の変化	15-⑥	マツクイムシ被害量(被害材積)
Ⅲ.2.2.(2)	森林生態系	指標16	森林生態系の連続性	16-①	森林の分断状況
Ⅲ.2.2.(2)	森林生態系	指標16	森林生態系の連続性	16-②	森林タイプ別平均パッチ面積
Ⅲ.2.2.(2)	森林生態系	指標17	森林生態系に生息・生育する種の個体数・分布の変化	17-①	「生きている地球指数」(LPI : Living Planet Index) 1978年に対する1997-2002年の鳥類の分布範囲の変化
Ⅲ.2.2.(2)	森林生態系	指標17	森林生態系に生息・生育する種の個体数・分布の変化	17-②	ヒグマ・ツキノワグマの分布
Ⅲ.2.2.(2)	森林生態系	指標18	森林の利用と管理	18-①	林家および林家以外の事業者の保有山林作業実施状況
Ⅲ.2.2.(2)	森林生態系	指標18	森林の利用と管理	18-②	針葉樹・広葉樹別国内素材生産量と用材自給率
Ⅲ.2.2.(2)	森林生態系	指標18	森林の利用と管理	18-③	薪炭の生産量
Ⅲ.3.2.(2)	農地生態系	指標19	農地生態系の規模・質の変化	19-①	耕地面積の推移
Ⅲ.3.2.(2)	農地生態系	指標19	農地生態系の規模・質の変化	19-②	水田整備率の推移
Ⅲ.3.2.(2)	農地生態系	指標19	農地生態系の規模・質の変化	19-③	農薬生産量・化学肥料生産量の推移
Ⅲ.3.2.(2)	農地生態系	指標19	農地生態系の規模・質の変化	19-④	草地面積の推移
Ⅲ.3.2.(2)	農地生態系	指標19	農地生態系の規模・質の変化	19-⑤	牛の使役目的の変化
Ⅲ.3.2.(2)	農地生態系	指標19	農地生態系の規模・質の変化	19-⑥	耕作放棄地面積の推移
Ⅲ.3.2.(2)	農地生態系	指標19	農地生態系の規模・質の変化	19-⑦	里地里山メッシュ割合の推移
Ⅲ.3.2.(2)	農地生態系	指標20	農地生態系に生息・生育する種の個体数・分布の変化	20-①	秋期の渡りで内陸を利用するシギ、チドリ個体数の傾向

章節項款	危機、生態系	指標No.	指標名	データ例No.	データ名
Ⅲ.3.2.(2)	農地生態系	指標21	農作物の多様性	21-①	イネ作付面積上位5品種の作付比率の推移
Ⅲ.3.2.(2)	農地生態系	指標19	農地生態系の規模・質の変化	BOX-③	これまでの環境保全型農業施策に関する評価
Ⅲ.4.2.(2)	都市生態系	指標22	都市緑地の規模の変化	22-①	首都圏の緑地面積の推移
Ⅲ.4.2.(2)	都市生態系	指標22	都市緑地の規模の変化	22-②	東京23区内の緑被率の推移
Ⅲ.4.2.(2)	都市生態系	指標23	都市生態系に生息・生育する種の個体数・分布の変化	23-①	東京都におけるハシブトガラスの分布の変化
Ⅲ.4.2.(2)	都市生態系	指標23	都市生態系に生息・生育する種の個体数・分布の変化	23-①	東京都におけるサンバの分布の変化
Ⅲ.4.2.(2)	都市生態系	指標23	都市生態系に生息・生育する種の個体数・分布の変化	23-①	東京都におけるヒバリの分布の変化
Ⅲ.5.2.(2)	陸水生態系	指標24	陸水生態系の規模・質の変化	24-①	明治大正時代から現在の湿原面積の変化
Ⅲ.5.2.(2)	陸水生態系	指標24	陸水生態系の規模・質の変化	24-②	釧路湿原の湿原面積の変化
Ⅲ.5.2.(2)	陸水生態系	指標24	陸水生態系の規模・質の変化	24-③	主要湖沼における干拓・埋立面積
Ⅲ.5.2.(2)	陸水生態系	指標25	河川・湖沼の連続性	25-①	ダム竣工数の推移
Ⅲ.5.2.(2)	陸水生態系	指標25	河川・湖沼の連続性	25-②	一級河川及び主な二級河川における魚類の遡上可能範囲(割合グラフ)
Ⅲ.5.2.(2)	陸水生態系	指標25	河川・湖沼の連続性	25-②	一級河川及び主な二級河川における魚類の遡上可能範囲(全国地図)
Ⅲ.5.2.(2)	陸水生態系	指標25	河川・湖沼の連続性	25-③	河川水際線の状況の推移
Ⅲ.5.2.(2)	陸水生態系	指標25	河川・湖沼の連続性	25-④	主な湖沼の湖岸の改変状況
Ⅲ.5.2.(2)	陸水生態系	指標25	河川・湖沼の連続性	25-⑤	琵琶湖のヨシ群落の面積の変化
Ⅲ.5.2.(2)	陸水生態系	指標26	陸水生態系に生息・生育する種の個体数・分布の変化	BOX-④	伊豆沼における魚種別漁獲量の経年変化
Ⅲ.5.2.(2)	陸水生態系	指標26	陸水生態系に生息・生育する種の個体数・分布の変化	26-①	一級河川における外来種の確認種数
Ⅲ.5.2.(2)	陸水生態系	指標26	陸水生態系に生息・生育する種の個体数・分布の変化	26-②	全国の湖沼におけるシャジクモの確認種数
Ⅲ.5.2.(2)	陸水生態系	指標26	陸水生態系に生息・生育する種の個体数・分布の変化	26-③	ガンカモ類の地点平均観察数
Ⅲ.5.3	陸水生態系	指標26	陸水生態系に生息・生育する種の個体数・分布の変化	BOX-⑤	河川における環境に配慮した事業例
Ⅲ.6.2.(2)	沿岸・海洋生態系	指標27	沿岸生態系の規模・質の変化	27-①	浅海域の埋め立て面積
Ⅲ.6.2.(2)	沿岸・海洋生態系	指標27	沿岸生態系の規模・質の変化	27-②	海砂利採取量の推移
Ⅲ.6.2.(2)	沿岸・海洋生態系	指標27	沿岸生態系の規模・質の変化	27-③	自然・半自然・人工海岸の延長の推移
Ⅲ.6.2.(2)	沿岸・海洋生態系	指標27	沿岸生態系の規模・質の変化	27-④	干潟面積の推移(全国)
Ⅲ.6.2.(2)	沿岸・海洋生態系	指標27	沿岸生態系の規模・質の変化	27-⑤	干潟面積の推移(東京湾、瀬戸内海の事例)
Ⅲ.6.2.(2)	沿岸・海洋生態系	指標27	沿岸生態系の規模・質の変化	27-⑥	藻場面積の推移
Ⅲ.6.2.(2)	沿岸・海洋生態系	指標27	沿岸生態系の規模・質の変化	27-⑦	サンゴ群集面積の推移
Ⅲ.6.2.(2)	沿岸・海洋生態系	指標27	沿岸生態系の規模・質の変化	27-⑧	石西礁湖におけるサンゴ被度の変化の事例
Ⅲ.6.2.(2)	沿岸・海洋生態系	指標27	沿岸生態系の規模・質の変化	27-⑨	砂浜の浸食速度の変化
Ⅲ.6.2.(2)	沿岸・海洋生態系	指標27	沿岸生態系の規模・質の変化	27-⑩	東京湾、伊勢湾、瀬戸内海における赤潮・青潮の発生件数
Ⅲ.6.2.(2)	沿岸・海洋生態系	指標27	沿岸生態系の規模・質の変化	27-⑪	閉鎖海域における環境基準(BOD又はCOD)の達成度
Ⅲ.6.2.(2)	沿岸・海洋生態系	指標28	浅海域を利用する種の個体数・分布の変化	BOX-⑥	瀬戸内海呉市周辺の海岸生物の種類数の変化
Ⅲ.6.2.(2)	沿岸・海洋生態系	指標28	浅海域を利用する種の個体数・分布の変化	28-①	秋季の渡り時に日本を通過するシギ、チドリの個体数の傾向
Ⅲ.6.2.(2)	沿岸・海洋生態系	指標28	浅海域を利用する種の個体数・分布の変化	28-②	アカウミガメの上陸数とその分布(砂浜)
Ⅲ.6.2.(2)	沿岸・海洋生態系	指標28	浅海域を利用する種の個体数・分布の変化	BOX-⑦	兵庫県と岡山県のイカナゴの漁獲量の推移
Ⅲ.6.2.(2)	沿岸・海洋生態系	指標28	浅海域を利用する種の個体数・分布の変化	28-③	砂浜に生息する種の漁業資源の変動(ハマグリ類の漁獲量)
Ⅲ.6.2.(2)	沿岸・海洋生態系	指標29	有用魚種の資源変動	29-①	日本周辺の資源水準の状況
Ⅲ.6.2.(2)	沿岸・海洋生態系	指標29	有用魚種の資源変動	29-②	漁獲量と海洋食物連鎖指数(MTI)
Ⅲ.6.2.(2)	沿岸・海洋生態系	指標29	有用魚種の資源変動	29-③	漁獲量の長期トレンド
Ⅲ.7.2.(2)	沿岸・海洋生態系	指標30	島嶼の固有種の個体数・分布の変化	30-①	琉球諸島における固有種の絶滅危惧種割合
Ⅲ.7.2.(2)	島嶼生態系	指標30	島嶼の固有種の個体数・分布の変化	30-②	小笠原諸島における固有種の絶滅危惧種割合
Ⅲ.7.2.(2)	島嶼生態系	指標30	島嶼の固有種の個体数・分布の変化	30-③	琉球諸島における絶滅危惧種の減少要因